



空き家利活用コンテスト2022 優秀賞



非住宅部門

事例 02

## タルマーリー智頭店

建物とともにかつてのにぎわいも再生  
カフェ&宿で観光と日常をつなぐ



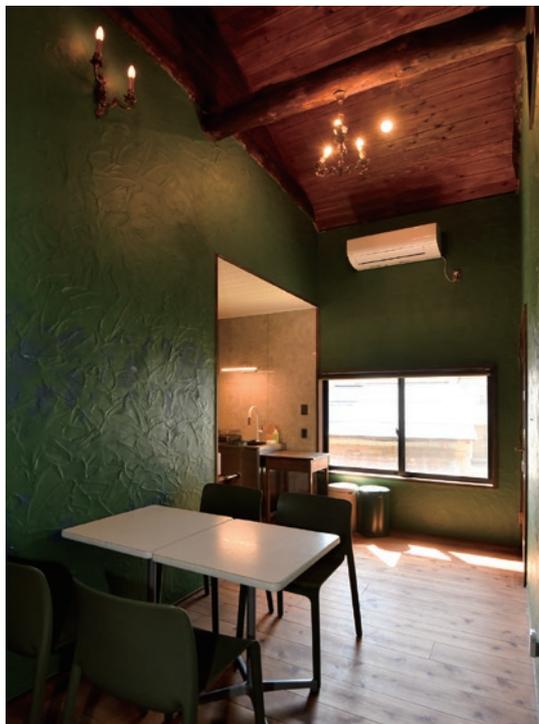
カフェスペース(写真上)とエントランス(写真下)。何度も塗り直したという壁の色、タイル張り、照明や電気スイッチカバーといった備品で1970年代を意識した雰囲気に統一されている。想定外に床下から現れた石積みの井戸は、ガラスのテーブルを載せてカフェの特等席に。

「まさかここがカフェになるなんて」。かつては編み物教室としてにぎわっていたが、空き家となっていた建物の大変身に、近隣住民はそう感動したという。智頭町にある野生酵母パン&ビールの店「タルマーリー」のオーナーが一目見て気に入り、カフェと一棟貸しの宿を融合した2号店を構想。費用がかさむことは分かっていたが、「このままでは朽ちて無くなる。再び人が集う場にしたい」という強い思いにより改修がスタートした。

地域住民が慣れ親しんでいる黄色い外観は残し、窓はフェンスや障子を外して透明ガラスに交換。通りかかる人々にカフェの様子が伝わりやすく、かつ店内が明るく開放的になった。宿泊スペースは、快適かつ豊かに滞在できるよう素材や住設機器類を吟味、断熱性能も向上。内装にこだわり、アンティークの調度品や扉などを国内外から取り寄せたほか、前建物の古材やタイルを活用し各所に散りばめている。

「人々に愛された建築は記憶に残っている。それを丁寧に再生することで、必ず地域の価値が見直される」と受賞者。再び役目を与えられた建物は、智頭宿の新たなスポットとして観光と地域の日常をつないでいる。



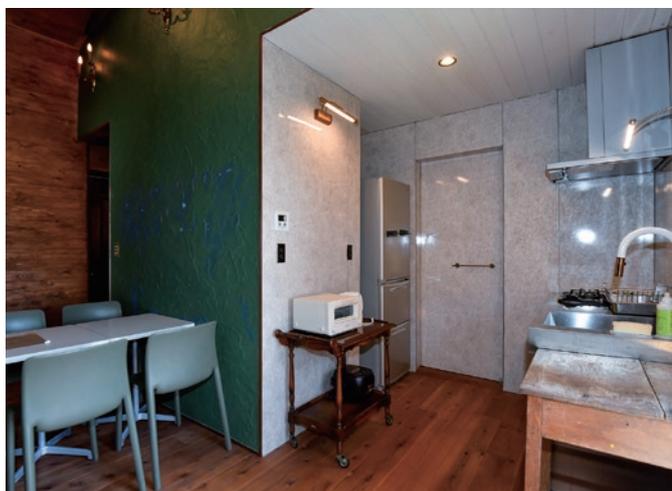


カフェの奥にある、1日1組限定のホテル「やどり木の家」のダイニング。左官仕上げの壁を、オーナー自らが緑色のペンキを塗って仕上げたという。食事はもちろん、ワークスペースとして利用することもできる。



もともとは和室だった宿の寝室。天井・壁・床は杉板を張り、吹き抜けの梁にはシャンデリア、壁にはステンドグラスも。落ち着いた雰囲気心が寛ぐ。(撮影時はウッドデッキ工事中)





(写真上・右下)細かいタイル細工が美しい洗面所と浴室。宿で過ごす時間が愛おしくなる。  
 (写真左下)「暮らすように過ごしてほしい」と、コンパクトながら設備充実のキッチンを設置。



[ DATA ]

【所在地】八頭郡智頭町智頭594 【構造】木造平屋建て  
 【築年月】昭和22年 【改修後の用途】カフェ+宿  
 【間取り構成】<店舗>カフェスペース、厨房、バックヤード  
 <宿泊>個室2室、ダイニング、キッチン、トイレ・風呂  
 【改修期間】2020年6月～2022年3月  
 【改修費用】約2,000万円(物件取得費含む)  
 【設計者】株式会社 PLUS CASA